

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

病院等の名称	医療法人社団成蹊会 岡田病院
見直しを行った機能	急性期・慢性期
H30許可病床数からの削減数	27床
変更予定年月日	2020年3月1日

1 地域の状況		
地域の現状と課題	今後、2025年に向けての長門医療圏内の人口は推計で現在より約2,800人減少することが予想される。2018年時点においてはの長門医療圏の病床区分は高度急性期病床0床、急性期病床389床、回復期病床38床、慢性期病床205床となっていた。人口減少に伴い病床区分ごとの病床数の調整が必要であると考えられるが、依然として急性期病床及び慢性期病床が地域医療構想の病床数を上回っている。	
2 自施設の状況		
自施設の現状 (変更前)	長門医療圏内の人口減少に伴い、外来患者数及び入院患者数は年々減少傾向にある。また、医師、看護師をはじめとする医療スタッフが慢性的に不足している状況が続いている。	
病床数の見直し	見直しの考え方	少ないマンパワーで、良質な医療を提供するための病床数の適正化を図る。当院が持つ医療機能とその機能が十分に提供できる患者数を検証する。
	対象の病棟・病床の概要	現行の慢性期病床は1病棟が医療療養病床として48床、急性期病床は「2病棟」が一般病床として45床、同じく「3病棟」が一般病床として55床ほどの許可病床数を保有している。今回の計画で慢性期病床を10床削減（「1病棟」を38床まで削減）、急性期病床を17床削減（「2病棟」を40床まで削減、「3病棟」を43床まで削減）を予定している。
	入院患者への対応	使用可能な医療資源（人的・物的）を最大限に活用し、削減後の病床数の中で急性期から慢性期への適切な医療提供を持続し、在宅復帰を実現できるようなスムーズな運用に尽力する。それには急性期または慢性期病床に、受け入れ患者が偏らないようなきめ細やかなベッドコントロールを行うことが重要と考える。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	1の地域の現状と課題でも述べたように、長門医療圏の地域医療構想の病床数と現実の病床数には乖離があるため、地域医療構想における病床数を指標にし、当院の健全な経営を考慮して病床数の調整を行うこととした。	

【参考：H30病床機能報告（長門保健医療圏の状況）】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	介護保険施設 移行予定	合計
報告	①H30(2018)現状		389	38	205	21		653
	②R7 (2025)予定		383	40	145	35	50	653
構想	③R7 (2025)必要数	29	149	131	128			437

④構想との差(H30)(①-③)	△ 29	240	△ 93	77				195
⑤構想との差(R7)(②-③)	△ 29	234	△ 91	17				131